2021（令和3）年度 第1回

遺跡調査発表会要旨

発表遺跡 line up

発表１　笛吹市　花鳥山遺跡
昭和測量株式会社　髙野　高潔

発表２　中央市　上三條河原遺跡
山梨県埋蔵文化財センター
上野　桜

発表３　北杜市　多屋下遺跡
北杜市教育委員会　生山　優実

発表４　韮崎市　御座田遺跡
韮崎市教育委員会　渋谷賢太郎

1　花鳥山遺跡

2　上三條河原遺跡

3　多屋下遺跡

4　御座田遺跡

日時　令和３年10月17日（日）
会場　帝京大学文化財研究所大ホール

主催　山梨県考古学協会
共催　山梨県埋蔵文化財センター

花鳥山遺跡（はなとりやま）

昭和測量株式会社　　髙野　高潔

1　所　在　地　笛吹市八代町竹居 5144
2　調 査 主 体　昭和測量株式会社
3　調 査 期 間　令和２年 10 月 19 日～ 12 月 15 日
4　調 査 面 積　198㎡
5　調 査 原 因　送電線鉄塔建設のため
6　調査担当者　昭和測量株式会社 髙野高潔
7　調 査 概 要

花鳥山遺跡は御坂山地の山裾に広がる 400 m四方の平坦面に位置しています。標高は 500m 前後です。花鳥山遺跡から御坂山地に分け入るルートは、古代からの主要路とされる若彦路にあたり、鳥坂峠、大石峠を経て河口湖、富士山麓をめぐり太平洋に至ります。花鳥山遺跡からは地元である御坂山地の花崗岩や富士山の溶岩を用いたと思われる石器が出土しています。ほかにも伊豆・箱根方面の黒曜石や東海系の土器が出土しており、太平洋側への流通経路があったと思われます。また、信州方面の黒曜石や白馬岳が良質な産地と知られる滑石、関西系の土器、秩父方面にも産地を有する蛇紋岩なども出土しており、東西南北の広域に交流が行われていたと考えられます。

花鳥山遺跡の調査としては国学院大学樋口清之教授による昭和 29 年と 30 年調査の概要報告(『八代町誌』1975)、山梨県埋蔵文化財センターによる昭和 62 年調査の報告（『花鳥山遺跡・水呑場北遺跡』1989 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 45 集）が知られています。それ以前の研究史としては、古く明治期には中世・近世の古戦場として知られており、大正期には土器の出土が認識され、昭和 20 年代には住居址が確認されるようになります。

昭和 29 年・30 年調査・昭和 62 年調査・今回令和 2 年の調査区の位置関係については、昭和 29 年は台地の東縁辺部、30 年は台地中央部と西縁辺部、昭和 62 年は台地中央部を縦断する長さ 270 mの坂道にあたっています。今回の令和２年は台地中央部の上部で、昭和 62 年調査の上部地区と隣接しています（位置図参照)。

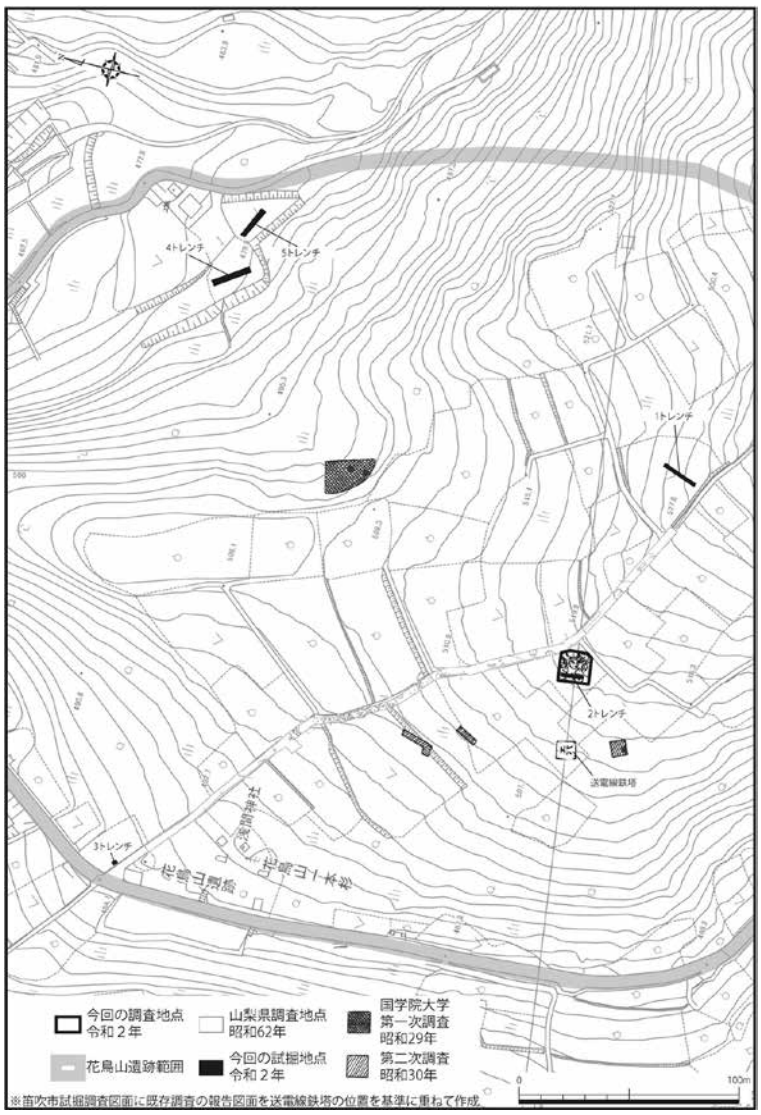
今回の調査地点は花鳥山遺跡の中央部にあたります。北西へ向かって下る傾斜地であり、調査地点の標高は 517 ～ 519m です。約 300m 北には山梨リニア実験線が走っています。調査地点はリニア実験線にも電力を供給している送電線の真下に位置しています。

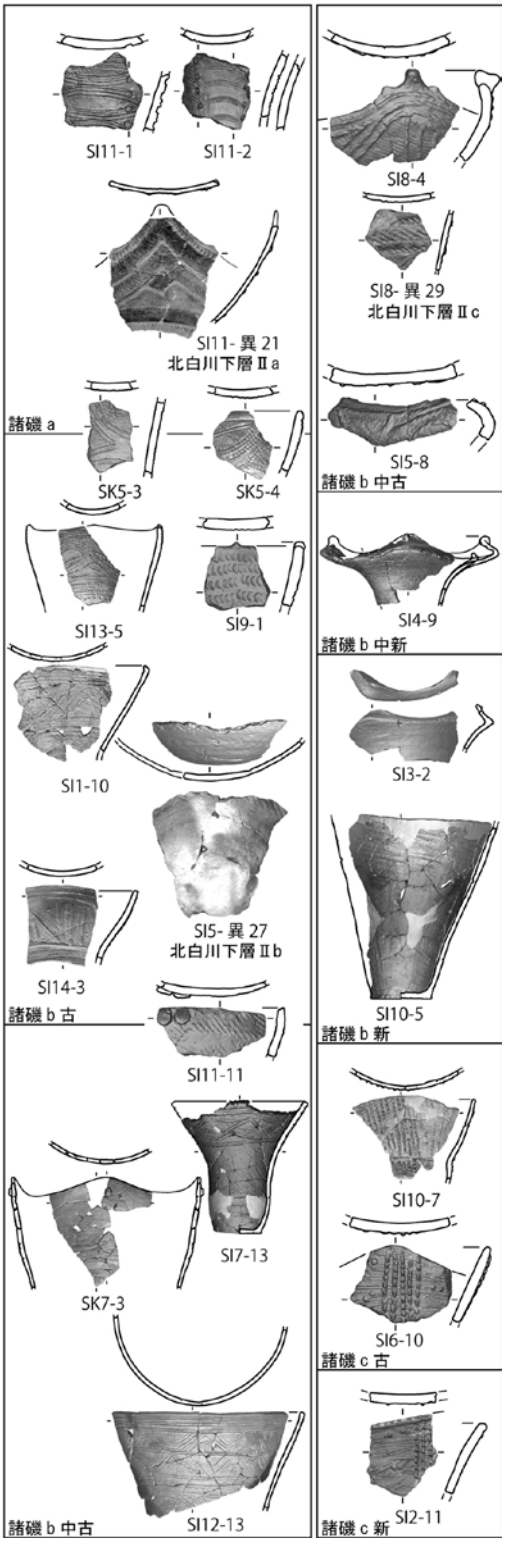
発見された住居は諸磯ｂ式期主体 11、ｃ式期主体３の合計 14 軒（ＳＩ１～ 14）です。14 m四方の調査面積からすると密度が高い箇所といえます。遺跡内における時期別分布をみると前回の調査では中央に諸磯ｂ式期が位置し、その上下（南北）にｃ式期が密集する傾向があります。この斜面上方のｃ式期住居が多い箇所に今回の調査区が接近しているもののｂ式期が多く認められました。過去三回調査が行なわれているとはいえ、一部の範囲に限られることから時期別占地については今後の課題でもあります。但し調査成果からみると遺構の密集度は高く、遺物の状況からもこの地域にあっての拠点的な集落であったことが考えられます。

花鳥山遺跡が諸磯式期のみの集落であったことは、一つには広大とまでは言えない平坦地と比較的傾斜が強い尾根に立地するこの地形にあったものと考えられます。一方、東海系や北白川下層系の土器も多く、特にベンガラで文様が描かれた精巧な土器の存在からはこの花鳥山集落が他地域との交流も含めた中心地であったことも想定できます。

集落を支えた生業に関わる遺物としては､打製石斧･石皿・磨石など植物採取・加工具類があります。これに加えて、出土した炭化材ではクリ・カヤ・コナラ属クヌギ節、炭化種実ではクリ・オニグルミ・トチノキの破片があり、分類不明ながら炭化鱗茎も確認できています。ユリ科ノビル・キジカクシ科ツルボに類似とのことで、食用・薬用など用途の解明が課題です。土器の種実圧痕分析では分析途中の状況ではありますが、多くのシソ科種子に加えマメ類も確認できています。これらの成果から、堅果類はもちろん野生のマメ類やシソ類（エゴマ）など豊富な植物資源利用の一端が垣間見えます。

1
2
A
B
C
SI1
SI2
SI3
SI4
SI5
SI6
SI7
SI8
SI9
SI10
SI11
SI12
SI13
SI14
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
基本層序
0
5m


1トレンチ
2トレンチ
3トレンチ
4トレンチ
5トレンチ
送電線鉄塔
今回の調査地点 令和２年
山梨県調査地点 昭和62年
国学院大学 第一次調査 昭和29年
花鳥山遺跡範囲
今回の試掘地点 令和２年
第二次調査 昭和30年
0
100m
※笛吹市試掘調査図面に既存調査の報告図面を送電線鉄塔の位置を基準に重ねて作成。


SI11-1
SI11-2
SI11- 異 21
北白川下層Ⅱa
諸磯 a
SK5-3
SK5-4
SI13-5
SI9-1
SI1-10
SI5- 異 27
北白川下層Ⅱb
SI14-3
諸磯 b 古
SI11-11
SK7-3
SI7-13
SI12-13
諸磯 b 中古
SI8-4
SI8- 異 29
北白川下層Ⅱc
SI5-8
諸磯 b 中古
SI4-9
諸磯 b 中新
SI3-2
SI10-5
諸磯 b 新
SI10-7
SI6-10
諸磯 c 古
SI2-11
諸磯 c 新

上三條河原遺跡

山梨県埋蔵文化財センター　上野　桜

1　所　在　地　中央市上三條字河原252－2ほか
2　調 査 主 体　山梨県埋蔵文化財センター
3　調 査 期 間　令和2年10月5日～11月30日
4　調 査 面 積　約660㎡
5　調 査 原 因　中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事のため
6　調査担当者　久保田健太郎・上野桜・小池準一
7　調 査 概 要

調査の概要

上三條河原遺跡は、中央市旧玉穂町の上三條地区（JR身延線小井川駅の90m程西）、釜無川扇状地の扇端部、標高約253mに位置しています。

長い間、この地域は、釜無川と笛吹川の氾濫原で遺跡が希薄な地域だと考えられてきました。しかし、近年の開発により小井川遺跡（中世、寺院、平安、集落跡）や平田宮第2遺跡（平安、集落跡・畑跡）、上窪遺跡（平安・中世、集落跡・水田跡）等数々の遺跡が見つかり、河川堆積物に厚く被覆されているものの、堆積物土壌下に中世・平安時代を中心とした遺跡が存在することが明らかになっています。

本遺跡は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴い、令和2年6月に実施した試掘調査において、新たに発見されました。試掘調査では、古墳時代後期の遺物等が見つかっています。

■調査の成果

調査区の東端には、南北方向に流れる旧河道があり、この旧河道の西側が陸地となり、そこに遺構が形成されている状況が確認できました。

遺構

竪穴建物跡2軒、土坑4基が見つかりました。

全体が水成堆積層（水によって運ばれ堆積した土、砂等の層）によって覆われる過程で遺構が損壊、また出水が激しい状況にあり、遺構の確認は困難を極めました。そのため、竪穴建物跡については、平面プランを確認することはできませんでした。

1号竪穴建物跡

調査当初、北西から南東へかけて旧河道状の窪地が見られました。調査が進むにつれ、当該地内より、多量な土器の出土が見られたほか、縁辺部においてカマドを発見したことなどから、竪穴建物跡を含むと推測しました。遺構の埋没過程で氾濫等の影響があり、竪穴建物が1軒なのか複数軒あるのかは不明です。

2号竪穴建物跡

調査区北壁に幅7m程度の掘り込みの断面が見られたため、竪穴建物跡であると判断しました。なお、竪穴建物跡は調査区内には展開はしていませんでした。

遺物

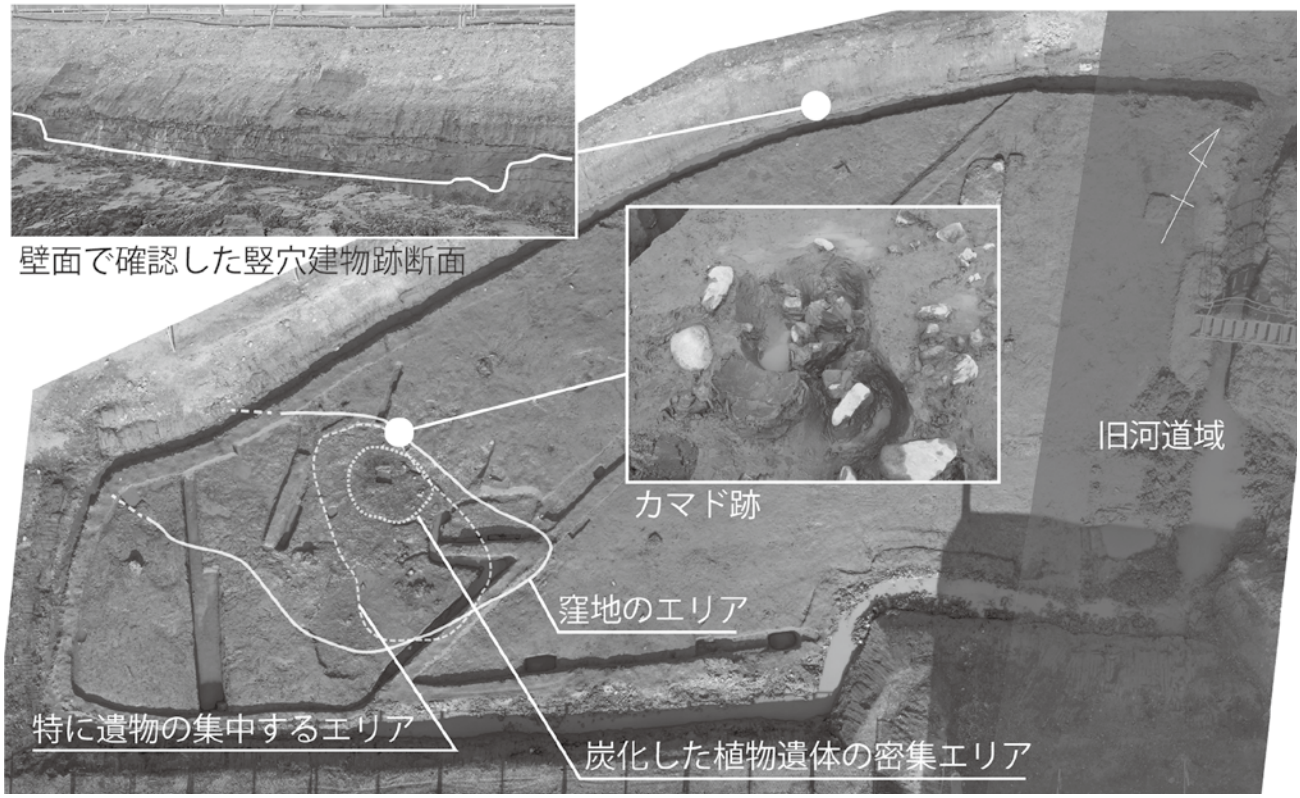
古墳時代後期から終末期の土師器片を中心に1,300点以上の遺物が見つかりました。遺物の分布は、1号竪穴建物跡（窪地）を中心に調査区の東側に多く分布していました。また、1号竪穴建物跡（窪地）には炭化した植物遺体が堆積している部分があり、遺物はその堆積内や上部から多く出土しています。

■まとめ

当該地には古墳時代後期から終末期の竪穴建物が少なくとも2軒分布しているとみられます。調査区の東側に南北に流れる旧河道があるほか、遺構の覆土や地山が水成堆積によるシルト（砂と粘土との中間の粒径をもつ砕屑物）や細粒砂から成ることから、遺構が分布するエリアも増水に伴って浸水しやすい環境であったことが想定されます。現在、整理作業を進めていますが、当該地域における古墳時代後期から終末期の遺跡立地や集落景観の考察に資する事例の1つになると考えています。

■その他

上三條河原遺跡の発掘現場では、郷土の歴史や遺跡に興味・関心、埋蔵文化財の保護への理解を持ってもらうため、多くの一般の方に生の遺跡や発掘調査のようすを見てもらうことを考えました。調査区の周りには、全面が目隠しとならない仮設フェンスを設置し、フェンス越しに常時誰でも自由に遺跡を見学できる現場公開を試みました（見学スペースや解説看板を設置）。



調査区全体

調査地点（▽）とその周辺の景観

調査区全体のようす（北東より）

１号竪穴建物跡（窪地）のようす

出土した遺物（坏、高坏、鉢、甕）

多屋下遺跡（たやした）

北杜市教育委員会　　生山　優実

１．所　在　地　北杜市須玉町大豆生田地内
２．調 査 主 体　北杜市教育委員会
３．調 査 期 間　令和３年１月 12 日～３月 31 日
４．調 査 面 積　2,312㎡
５．調 査 原 因　圃場整備
６．調査担当者　生山優実
７．調 査 概 要

１）遺跡立地と調査経緯

多屋下遺跡は塩川右岸の低位河岸段丘面上、標高約 460 mに立地する平安時代の集落跡です（写真１）。調査前、この場所は埋蔵文化財包蔵地ではなく、塩川に近いことから遺跡が存在する可能性が低いと考えられてきました。しかし、今回の圃場整備に先立ち試掘調査を実施した結果、河岸段丘面の東西約 30 m、南北約 120 mの範囲に平安時代の竪穴建物跡などが発見されました。そして「多屋下遺跡」として新たに登録されました。

本調査は、圃場整備範囲（約 24,000㎡）のうち、遺構が発見された範囲（2,312㎡）を対象として実施されました（写真２）。

２）発見された遺構

遺跡からは、平安時代の竪穴建物跡 28 軒、土坑 21 基、ピット 35 基、溝状遺構３条が発見されました。

調査区南東の 25 号竪穴建物跡は本遺跡で最も古く、９世紀初頭のものです。建物東半分は、かつての造成によって破壊されてしまったものの、西側半分と北壁に設けられたカマドが残存していました（写真３）。床面直上からは、底部に「×」の刻書がある土師器坏が出土しました。

調査区中央に位置する９・18・28 号竪穴建物跡は、９世紀前半、９世紀後半、10 世紀後半の時期の異なる３軒が重複しています（写真４）。９世紀前半の建物跡（18 号）は一辺が 2.5 mと小さく、東壁とカマドだけが残されていました。この 18 号竪穴建物跡を切って、９世紀後半（28 号）と 10 世紀後半（９号）の竪穴建物跡が重複して造られています。大きさはほぼ同じで、１m程度ずらして建て替えられています。同じ場所に建て替えを繰り返し、長期にわたり暮らしていたことが分かります。

調査区南側の 15 号竪穴建物跡は焼失住居で、炭化材が多く出土しました（写真５）。壁沿いには垂木と考えられる炭化材が中央から放射状に、建物中央には屋根材と考えられる直径１～２㎝の炭化材がまとまって出土しました。

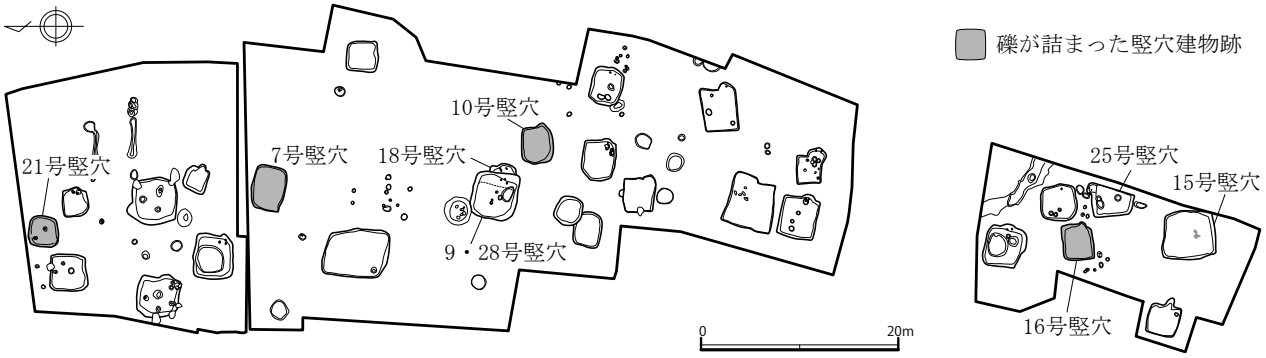
また、７・10・16・21 号竪穴建物跡は、30 ～ 50 ㎝の礫が多量に詰まった状態で発見されました（写真６）。洪水等で流された痕跡がみられないことから、意図的に建物を廃棄した時、または廃棄した後に礫が捨てられた可能性があります。

今回の調査で発見された竪穴建物跡のほとんどが、一辺４～５mの方形で、東壁または北壁にカマドが設けられていました。また本遺跡では、９世紀代の建物の中に一辺が２～３mと小さいものが存在しますが、11 世紀初頭には一辺５～６mと比較的大きくなる傾向がありました。集落が営まれる中で変化する人口や経済力、役割などによって建物の形態も変化していた可能性があります。

３）まとめ

以上の調査結果から、９世紀初頭から 11 世紀初頭にかけての平安時代の集落が河岸段丘面に広がっていることが分かりました。

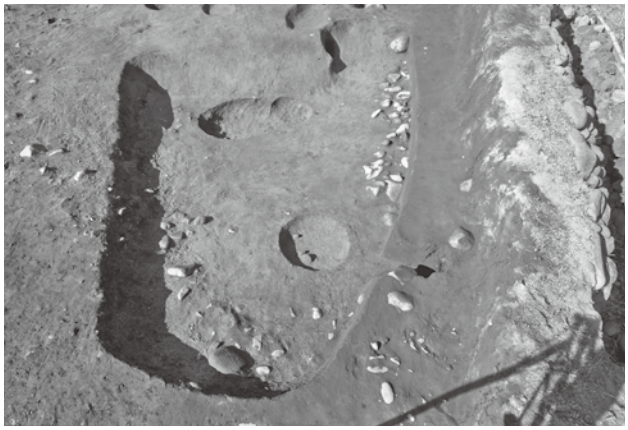
遺跡のすぐ東側を南流する塩川は、これまで度々、沿岸地域に洪水の被害をもたらしてきました。多屋下遺跡を含む範囲もその例外ではなく、昭和 57 年の台風 10 号では、本遺跡近くの上流と下流の橋が流失し、遺跡のすぐ近くまで浸水する被害が出ています。現在もハザードマップでは、最大 0.5 ～３mの洪水浸水想定区域に指定されています。平安時代には川底が今よりも高く、集落の近くを流れていたと想定され、水害のリスクは高かったと考えられます。こうした場所でありながら、約 200 年もの長期にわたり継続的に集落が営まれたのは、何か特別な理由があったかもしれません。



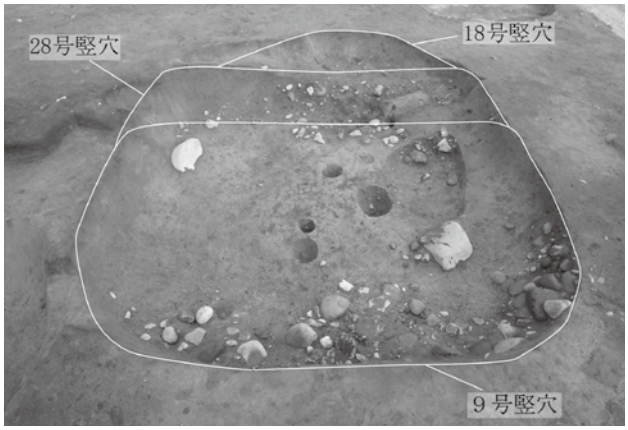
多屋下遺跡調査区全体図

【写真１】多屋下遺跡遠景（南から）

【写真２】調査区全景



【写真３】25 号竪穴建物跡



【写真４】9・18・28 号竪穴建物跡

【写真５】15 号竪穴建物跡（焼失住居）

【写真６】10 号竪穴建物跡

御座田（みさだ）遺跡

韮崎市教育委員会　渋谷　賢太郎

1　所　在　地　韮崎市龍岡町地内
2　調 査 主 体　韮崎市教育委員会
　※調査支援業務：（公財）山梨文化財研究所
3　調 査 期 間
　【第１工区】令和２年４月13日～令和２年６月30日
　【第２工区】令和２年９月23日～令和３年３月31日
4　調 査 面 積　約 14,700㎡
　【第１工区】①道路地点（市教委単独）約 2,000㎡
　　②圃場・道路地点（調査支援）約 3,000㎡
　【第２工区】③道路地点（市教委単独）約 2,500㎡
　　④古宮一番堤地点（調査支援）約 4,500㎡
　　⑤道路地点（調査支援）約 2,700㎡
5　調 査 原 因　経営体育成基盤整備（圃場整備）事業
6　調査担当者　渋谷賢太郎・閏間俊明・半澤直史
　　平野修・望月秀和・宮澤公雄
7　調査の概要

御座田遺跡の立地と調査経過

御座田遺跡は、韮崎市南端の龍岡町に所在します。釜無川と御勅使川の合流点に近く、釜無川右岸の氾濫原と御勅使川が形成した小扇状地に立地します。遺跡の西側には崖があり、その上に龍岡台地が広がります。比高差が 30 ～ 40 m程で、八ヶ岳崩落堆積土が釜無川に削られて形成されたものです。遺跡からは北に八ヶ岳、南に富士山を望むことができます。遺跡の近くには治水関連の「堀切」という地名や「十六石」などの伝承地があり、釜無川・御勅使川に目を向けると石積出、将棋頭、信玄堤があり、武田信玄による一連の治水事業として理解されてきました。本遺跡の所在地は、小字が御座田であり『甲斐国志』ではかつて「御座田村」があったとされています。江戸時代の絵図には「字御座田村古屋敷」と読み取れる部分があることからも、かつて集落が存在したことが想定されます。

御座田遺跡ではこれまでに数回の発掘調査が行われており、平成 18 年には多目的広場・総合福祉センター建設に伴う調査が行われました。中世から近世の溝、配石墓等を検出し、中世から近世の村の存在が裏付けられました。

本事業に関わる発掘調査は平成 28 年度から実施しています。平成 28 ～ 30 年度の調査では、農道新設に先がけて崖際約 2㎞の調査を実施し、古墳時代後期～平安時代の須恵器窯に伴う灰原を 80 ～ 100 mの間隔で約 10 地点確認しました。令和元年度からは圃場の面整備に関わる調査を実施しています。今回の調査は、圃場整備の第 1 工区及び第 2 工区内で約 14,700 mが調査対象となりました。

各調査区の調査概要（第１図）

【第１工区】

①　道路地点（市教委単独）

ピット 970 本以上、土坑 90 基以上、溝状遺構 20 本以上、炭窯状遺構 4 基等を検出しました。これらの遺構は、概ね中世に属すると考えられますが、一部は平安時代の遺構との重複が想定されています。遺構の集中する地点については、中世の村跡であることが想定されます。

②　圃場・道路地点（調査支援）

江戸期に龍岡台地上に移転した「御座田村」の推定地とされています。ピット・土坑・溝跡等を大量に検出しました。そのほかに礎石土台建ち建物や人骨が埋葬された土壙墓等を検出しました。

【第２工区】

③　道路地点（市教委単独）

CH401 では掘立柱建物跡、土坑、ピット、炭窯状遺構等を検出し、CH402 ～ 406 では、重層的な水田跡、畠跡を検出しました。水田跡は、畦畔とともに溝跡（水路）や当時の足跡等が洪水砂に覆われた状態で確認されました。

④　古宮一番堤地点（調査支援）

全長約 560 mの堤防跡であり、令和元年度に南側半分にあたる約 280 mの調査をしました。令和 2 年度は北側半分にあたる約 280 mの調査を実施しました。現況の石積みの清掃後、測量による記録図化をしました。洪水砂等による埋没部分については、部分的にトレンチを設定して基底面の構造確認の調査を実施しました。その後、堤防跡の断割り調査を実施し、堤防の構築方法の記録図化を行いました。調査の結果、概ね近代の構築物であると判断されるとともに部分的な拡張等が行われたことが明らかとなりました。

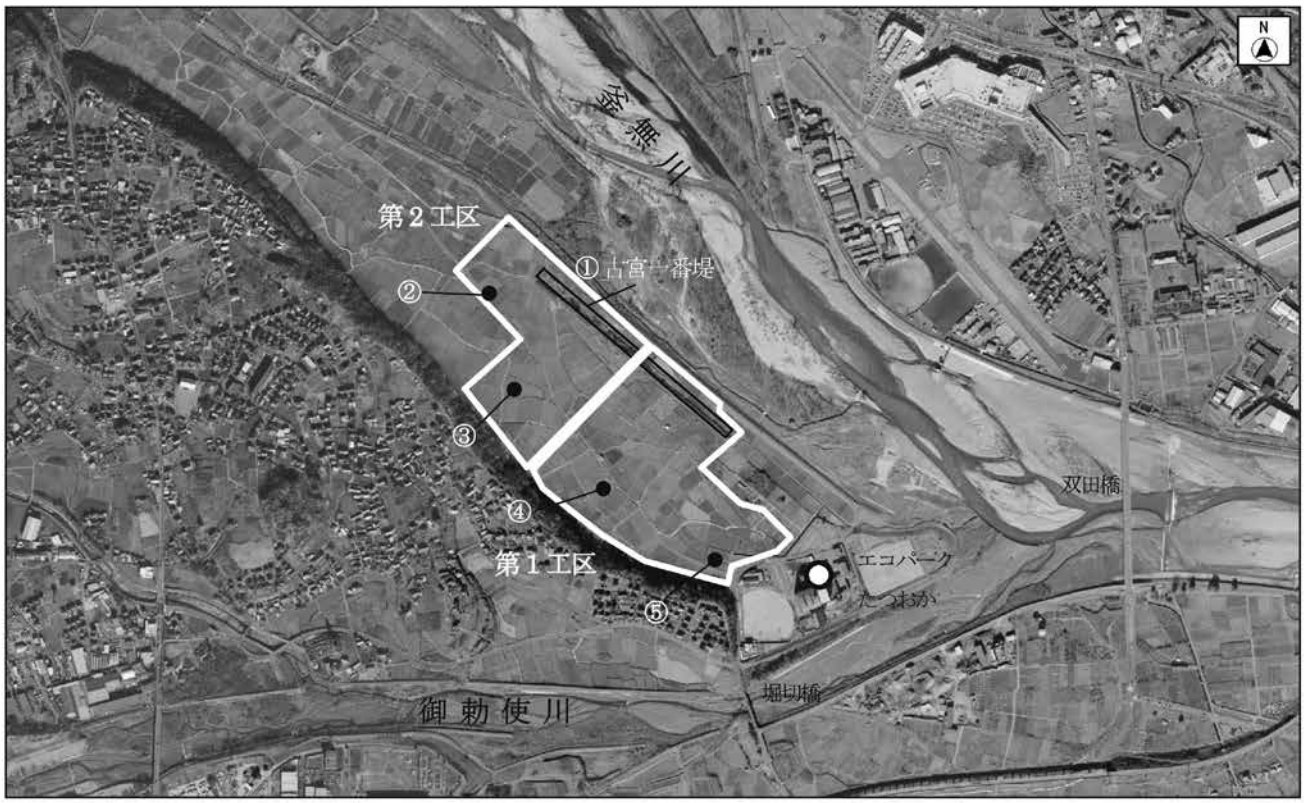
⑤ 道路地点（調査支援）

炭窯状遺構やピット、土坑、水田跡、畠跡、溝跡等を検出し、写真及び測量等により記録図化を実施しました。

調査の成果と課題

今回の調査を整理すると、以下の成果があげられます。１．御座田遺跡における古墳時代～近代・現代にかけての土地利用の大きな変化が捉えられる。２．中世～近世の集落と水田や畑といった生産域を含めた村全体の構造の一端が捉えられる。３．度重なる水害にも幾度もこの地で再起を試みた先人たちの足跡を辿ることができる。

今後の課題としては、各調査地点間の詳細な検討を進める必要があります。また古代～現代の各時代における周辺遺跡との比較検討をすることが、御座田遺跡のみならず甲斐国の歴史を紐解く上で重要であると考えます。



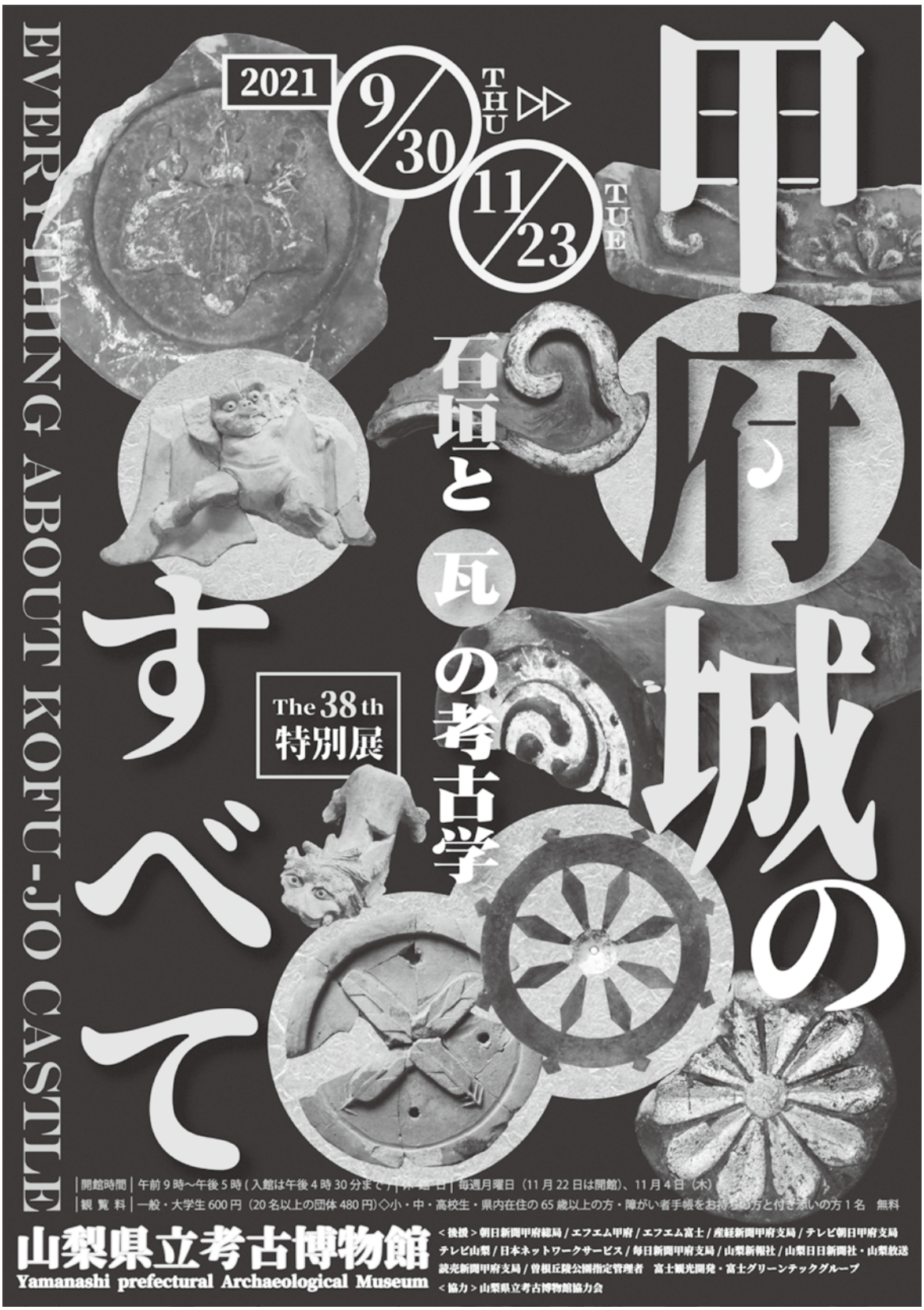
第１図　御座田遺跡　調査地点位置図

第１工区・第２工区 全景

第１工区 道路地点 遺構完掘状況（①）

第２工区 道路地点 CH403 水田跡確認状況（③）

第２工区 古宮一番堤地点 堤体検出状況（④）



2021（令和3）年度　第1回

遺跡調査発表会要旨

発行日　2021年10月17日
発行所　山梨県埋蔵文化財センター　TEL 055-266-3016
〒400-1508 山梨県甲府市下曽根町923
https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/
山梨県考古学協会　TEL 055-263-6441
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566
帝京大学文化財研究所内
やまなしのこうこがく https://sankoukyou1979.wordpress.com/
印刷所　峡南堂印刷所　TEL 055-235-2528